熊谷スマートシティ実行計画（熊谷スマートシティ推進協議会）

令和３年７月
（令和５年１２月更新）
（令和７年３月更新）

熊谷市の課題解決に向けたスマートシティ戦略のコンセプトとして、市民目線でデータ利活用を推進し、まちのにぎわいと魅力を創出するとともに、市民にも来訪者にも優しいまち（やさしい未来発見都市 熊谷）を目指す。

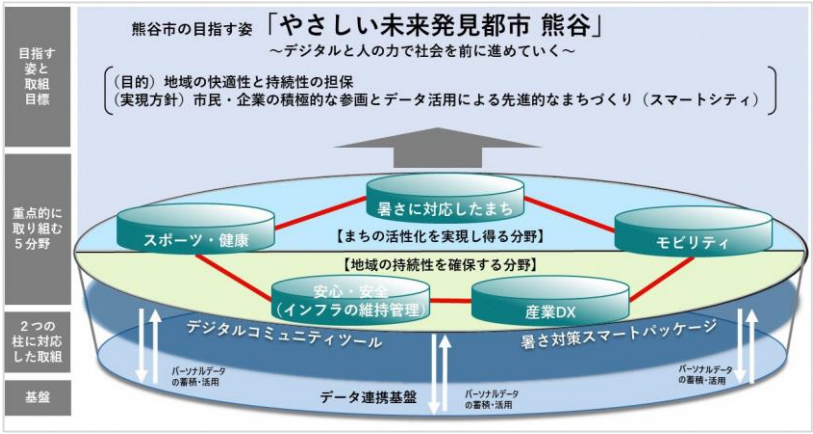
目標

地域の快適性と持続性を担保し、市民参加とデータ活用による先進的なまちづくり

【暑さに対応したまち】クマぶらの利用登録者数（増加数）等　**【モビリティ】**Webアプリによるバス回数券購入者数増加 等　**【スポーツ・健康】**スポーツイベントスタンプラリー参加者数増加 等
【安心・安全（インフラの維持管理）】３Ｄ都市モデルワークショップ参加者数 等
【産業DX】産業DX推進事業における事業認定数

取組概要

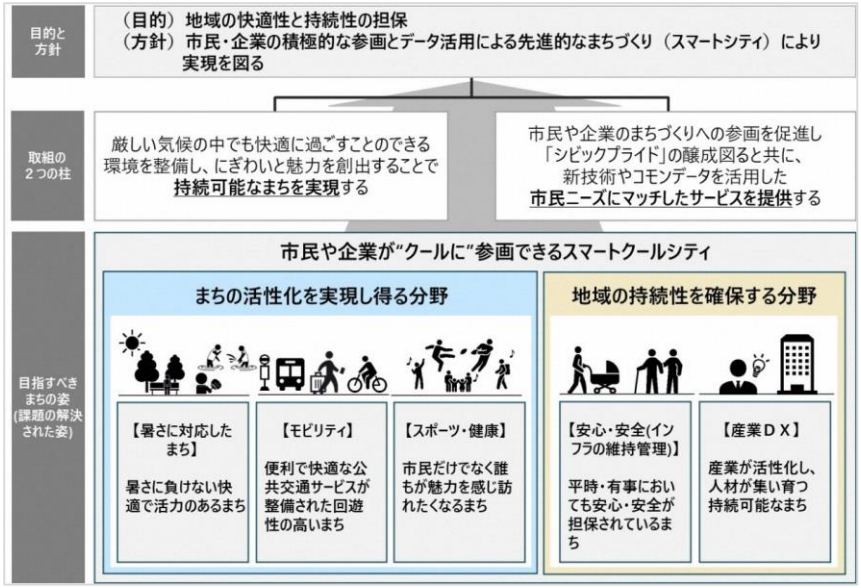
「やさしい未来発見都市 熊谷」の実現に向けた取組の展開



熊谷市の課題に対応するため、まちの活性化を実現し得る分野として、「暑さに対応したまち」「モビリティ」「スポーツ・健康」の３分野、また、地域の持続性を確保する分野として、「安心・安全（インフラの維持管理）」、「産業ＤＸ」の２分野の計５分野の取組を展開する。「デジタルコミュニティツール」の活用と、熊谷市が培った暑さ対策のノウハウを活かした「暑さ対策スマートパッケージ」の提供など、先進的技術を積極的に活用しながら、各領域のサービス展開を行い、熊谷市の目指すまちづくりの実現を目指す。
また、データ連携基盤の整備により各デジタルサービスを紐づけて利用できる仕組みを構築する。

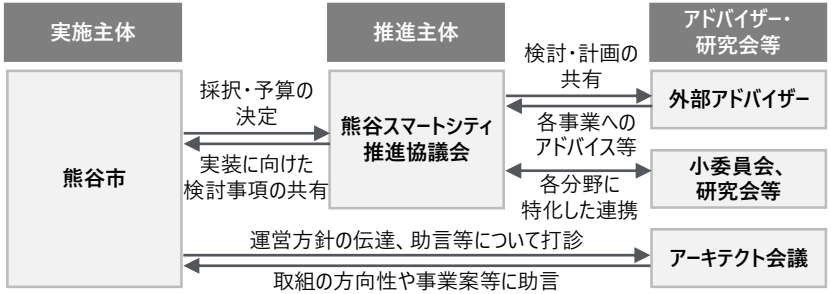
将来像

人の力（市民参画等）とデジタルの力（データ活用等）により、まちの活性化及び地域の持続性を確保する。



体制

熊谷スマートシティの取組体制は、本市が抱える多様な課題解決に向けた実証的取組が可能な事業実施体制の構築を図るため、「官・民・学」が連携した「熊谷スマートシティ推進協議会」を中心に構成される。



スケジュール

５分野に関し取組の一部について記載。このほかにも、地域電子マネーの導入、コミュニティバスのスマホ回数券の導入、人流データ分析によるまちづくり等の取組を実施する。

実施項目	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度
データ連携基盤	基本方針検討・設計		システム構築・サービス検討	実装・運用			
都市ポータルアプリ「クマぶら」	サービス設計・システム構築	実装・運用（まちあるきアプリに特化）		都市ポータルアプリとしての機能拡充・マイナンバーカードによる本人認証機能の追加		運用継続（さらなる機能拡充を検討）	

５分野	実施項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
暑さに対応したまち	暑さ対策スマートパッケージの展開	ニーズ把握方針検討		サービス内容検討・実装準備 暑さシミュレーション作成	実装・運用			
モビリティ	AIオンデマンドを含めたMaaSの導入検討		ニーズ把握・サービス検討	MaaS部会、小委員会で検討	計画策定	実装・運用		
スポーツ・健康	スポーツ観戦前後も楽しめるまちづくり	技術・サービス実証アプリ構築		実装・運用				
安心・安全（インフラの維持管理）	交通安全カメラを活用したまちの見守り				技術実証・効果検証	実装・運用		
産業DX	生活支援ロボットやドローンの実証				ニーズ把握・連携検討・環境創出 技術実証・効果検証			